

宿経営と地域に必要とされる活動で

島の一員に

定住を見据え任期中に宿を開業

私が西海市の地域おこし協力隊になったきっかけは、名古屋市で開かれた移住相談会でした。当時、私は名古屋で一六年にわたり居酒屋を営んでおりましたが、長崎県で宿を経営することが目標だったので、応募を決意しました。

令和元年五月に西海市の松島に赴任。現在は任期四年目で、島のPR、特産品（麦みそ、鉄火みそ、カンコロ餅）の製造、野菜の生産・販売、仕出し料理や弁当づくり、宴会・行事の手伝い、島内二軒の宿の経営などの活動を行っています。このうち任期後の定住に向けて赴任当初から取り組んでいるのが宿の経営で、現在の活動の柱の一つとなっています。



松島（まつしま）

西海市瀬戸港から1kmほどにある島。面積6.37km²、周囲10.6km、人口395人（2022年11月末現在）。肥前大村藩領の48カ村のひとつで、昭和30年までは、1島1村。島名の由来は松が生い茂っていたことから。江戸時代には捕鯨で栄え、その後、昭和初期まで石炭採掘の島として繁栄した。

宿の開業に向けては、候補地探しからリフォームの手伝いまで、島の多くの方々に助けていただきました。初めて島に降り立った日、「ようこそ松島へ」の垂れ幕でお出迎えいた

原田 剛吉



古民家を改修して開業した宿「新屋敷」の外観。

ができました。一緒に焼酎を飲んで(二升ほど)気に入っていただけなのか、次の日に島内や集落の空き家をご案内いただきました。いま私が営んでいる外平地区の宿「新屋敷」となる古民家との出会いは、まさにこの時でした。当時はボロボロでしたが、何か凄い力を感じ「ここだ!」と一目惚れしたことを覚えています。

その後、本村地区にも空き家を見つけ、その二軒を改装、外平の宿「新屋敷」、本村素泊まりの宿「はえん風」として開業しました。しかし、オープンがコロナ禍の令和二年八月だっ

き、歓迎会では島の食材を使った豪華な料理を振る舞っていただいたことは今でも記憶に新しいところです。所用のため実家に戻ったことがありましたが、島に帰ってきた時に町内の宴に呼ばれ、現在でも大変お世話になっている山口静男さんとお話すること

ためまったくお客様を呼べず、最近になってようやくお迎えすることができるようになってきたところです。

地域の方々との対話の重要性

当初、私は三年で協力隊の任期を終える予定でした。しかし、コロナの打撃を受け宿の経営を含む多くの活動が十分にできない状態になったこと、令和三年度に地域おこし協力隊員の任期特例が創設「※」されたことを受けて、四年目まで任期を延長し、現在にいたっています。

私の考える地域おこし協力隊の仕事とは、自分本位で活動するのではなく、赴任地のさまざまな方との対話・相談を通して「何が課題か、何があったら良いか」を模索し、自らが協力可能な取り組みを見つけていくことです。赴任地それぞ

■外平の宿「新屋敷」

長崎県西海市大瀬戸町松島外郷
1668-1

電話：0959-22-2811

1泊2食(朝夕)付 1名様11,250円
より

※予算に応じて料理をグレードアップ可能

(伊勢海老、ふぐ、鮑、くえ、長崎和牛など)

■本村素泊まりの宿「はえん風」

長崎県西海市大瀬戸町松島内郷
375

電話：同上

1日1組(2名様以上)限定の一棟貸し
素泊りのみ 1名様3,550円

■その他

松島ガイドツアー、収穫体験、
SUP・カヌー・釣り体験、貸竿、電動レンタルサイクルなど

※詳細は外平の宿「新屋敷」まで



地域の方々とBBQ、外平の宿「新屋敷」にて。



松島農産加工所でのカンコロ餅づくり。

れに違ったニーズがあり、答えがある。地域の方々も一人ひとりに考えがあり、外部の人材を活用したいと思っている方から、現状のままが一番だと感じている方までいろいろです。多くの方々と話し、互いの理解を得ていくことが重要だと思います。

地域の皆さんとのコミュニケーションは、協力隊員が任期

後に定住を果たす上で重要なことです。私自身この商売をしている割に少し人見知りなので、自分から進んで地元の方々に挨拶し、会話をするように心掛けています。松島の皆さんはウエルカムの心が強く、私は当初から温かいおもてなしを受

けています。そんな皆さんの気持ちに応えたいと、地域おこし協力隊員として何をするべきかを常に考えながら活動していますが、私の場合は、板前修業時代から三十年以上にわたる料理をつくってきたこともあり、この得意分野をベースとした取り組みがそれにあたると思います。現在、外平地区の区長をされている山本安幸さんなどにお世話になりながら、松島農産加工所で味噌やカンコロ餅の加工に取り組んでいますが、野菜づくりや郷土料理の提供はもちろん、伝統文化継承、消防活動や草刈り、イノシシの駆除まで、松島に必要とされる活動のすべてに一生懸命に取り組むことで、島の一人になれるように頑張っていきたいです。

複数の仕事を組み合わせた働き方を模索

私は、今年の五月で地域おこし協力隊を卒業する予定です。宿の経営がメインとはなりますが、やはり島ではそれだけで生計を維持していくことが難しく、複業（副業）も考えているところです。具体的には、弁当づくりなどのほかに、島の玄関口（フェリー・市営船乗り場）に、コインロッカー式の自動販売機三台（常温・冷蔵・冷凍）、レンタル電動自転車を置くログハウスを整備する計画です。二四時間営業できるとともに、無人なのでコロナ対策としても良いと思います。何時でも活用

受け入れ側からの言葉

さまざまな地域活動で外平の活力に

松島の南側、外平地区には何にもない。信号も横断歩道も、商店も学校もなく、あるのは高齢化のみ(笑)。こんな外平に原田剛吉さん夫婦が来てくれ、150人の集落の人口が2人も増えました。

原田さん夫婦は、本当にやる気いっぱい、古民家を改修した宿を2軒もつくり、地域のことにも積極的に参加してくれています。こんな何にもない外平で民宿を柱にやっていけるのかと、心配もしました。そもそも開業当初から新型コロナウイルス感染症のため、本業ができない状態。それでも彼らは、弁当づくりや島内行事などを手伝いながら、宿の経営に向けて着々と準備を重ね目標に向かって前進しているようです。

私は、令和3年4月から原田さん夫婦と一緒に地元の「松島農産加工所」の一員として汗を流しています。加工所は、もともと農家の女性たちの生活改善を目的に整備されましたが、最初の15人ほどのメンバーが高齢のため引退し、一時は2名のみとなりました。しかし、地元の特産品をなくしてはいけないと、私も原田さんとともにメンバー入りし、味噌やカンコ餅づくりなどに取り組んでいます。

また、原田さんは、農産物などに被害をもたらす有害鳥獣対策に取り組む「松島猪対策組合」にも加入し、日夜奮闘しています。島内を走る「松島よかとこ運輸部」の運転手として、松島住民の足としても活躍しています。今年度は、外平公民館の文化部員として盆踊りやこの集落に古くから伝わる結「株内(かぶち)」の講演会にも参画し、農業に携わる若者の中心的な存在になるなど、外平の一員として地域住民のやる気を引き出してくれる存在です。

本業の民宿業が軌道に乗り、これからも外平の活力の源であり続けてほしいと願っています。(外平区長 山本 安幸)

※新型コロナの影響により活動に大きな制約を受けた地域おこし協力隊員(令和元年度から3年度までに任用された者に限る)が、3年を超える活動を希望し、受け入れ自治体が「任期の延長が必要」と認めた場合に、2年を上限に任期の延長を認める特例措置。

原田 剛吉 (はらだ たかよし)

静岡県熱海市出身。東京および千葉で板前修業をして、名古屋市で居酒屋を16年経営。令和元年5月に地域おこし協力隊として松島に移住。翌2年8月、同島の本村および外平地区に宿を開業。趣味はスノーボード(今はできない)、キャンプ、釣り。

できるイートイン・スペースの設置も考えており、唐揚げやソフトクリーム(夏季)の販売なども構想中です。

まだ何も取り組めてはいませんが、今の私の大きな夢は、宿「新屋敷」の近くに温泉を掘り、サウナを併設した施設をつくることです。何よりもまず今の仕事を軌道に乗せることが重要ですが、勢いがついてきたら取り組み始めたいと考えています。

私が松島で生きていこうと決意できたのは、自分の「やりたいこと」を見つけられたからです。「やらされる」のではなく、続けていくことは困難です。島の方々との会話などを通してさまざまな意見をうかがい、自分の目標を伝えながら賛同者を集めていくことで、地域の皆さんも自分自身も楽しみながら働いていきたいと思っています。